

線射技



レストランのレジに釣りの銭を自当てにした募金箱が置かれていた。入っていた。取り出して数カ月が過ぎた頃、募金箱にまた千円札が二枚入っていた。よほどの篤志家がいるのかと思つたが気にも留めなかつた。

金箱に千円札入れていたよ」と興奮気味に私の診察室に駆け込んできた。それは三十代になろうとする物静かな女性だった。通院を始めて半年近くになる。彼女は来るたびに千円札を入れていた。持たない。医療費全額を窓口で支払っていく。身なりからは決して裕福とは思えない。

のをよく目にする。多くは一円玉、五円玉、十円玉などが入っている。私のクリニクの受付にもAMD Aの募金箱が置いてある。箱の上にはAMD Aのポスターが貼ってあり、寄付金の使い道が示されている。

募金箱

それは三十代になろうとする物静かな女性だった。通院を始めて半年近くになる。彼女は来るたびに千円札を入れていた。それが幸せになれると考えているからだ。

私自身も時々財布の中の小銭を入れている。あるとき事務員が「先生、募金箱の中の千円札だけ取り出してください。目立ちすぎるから」と言ってきた。見ると確かにコインに交じって千円札が三枚入っていた。

募金箱

私のクリニクの患者さんの一五%近くは外国人である。一カ月に延べ二百人近くやってくることもある。ある日、カンボジアから帰化した事務員が「さっきこのタイの娘、募金の常識とタイの常識。どちらが正しいかは私にはわからない。だが彼女の千円札は「募金」に関する私の中の常識を、見事にひっくり返してくれた。

（小林 米幸|| AMD A・アジア医師連絡協議会日本副代表）

